

講義名	品質管理論			授業形態	
担当教員	持田 信治	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

### 主題と概要

本講義はものづくりやサービスにおける品質を理解することを主題とする。更に本講義の主題は本学のディプロマポリシーに沿って、企業経営や組織行動に資する課題や問題に対する、論理的な思考に基づいた具体的な改善策や解決策の提案ができるようになることであるものづくりやサービスに於いて品質の確保は最重要課題である。そこで、本講義では品質の定義及び考え方の説明を行い、品質の管理と維持方法について説明する。加えて本講義は品質管理検定3級、4級程度の実力を身につけることを目標とする。

### 到達目標

本講義はパソコンを使用した対面授業を前提としている。以下を本講義の到達目標とする。

- (1) 品質と品質管理について説明できるようになる。
- (2) 品質の維持、改善のための手法を活用できる。
- (3) 品質の維持、改善活動の計画と実行ができる。
- (4) 品質管理検定3級、4級検定に対応できる実力を身につける

### 提出課題

講義の終わりに当該講義に関する小テストを行うことがある。また、講義内容に関するレポートの提出を要求することがある。小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題に対する評価や質問に対しては、必要に応じて次の講義で解説と説明を行う。

### 評価の基準

- (1) 評価は講義への参加度合いと課題の提出状況により算出する。
- (2) 授業参加度と小テストが50点、そして試験又は課題を50点で評価する。
- (3) 課題やコメントについて自主学習が認められる場合には特に評価する。
- (4) 授業参加度の確認と小テスト及び課題の提示と回収はRESPONにより行う。

### 履修にあたっての注意・助言他

- (1) 授業の運用方法、評価基準、受講ルール等の重要事項を初回の授業で説明するので、履修希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。
- (2) 筆記用具を準備しておくこと。
- (3) 講義中の私語、飲食、カバンや飲食物を机の上に並べること及び途中入室、途中退室、携帯電話の使用は厳禁とする。ルール違反者は厳重に対応する。場合によっては退室を命じられることもある。
- (4) 講義においては質問を行う等の積極的な参加を期待する。
- (5) ポータルに資料がアップされている時は事前に確認しておくこと
- (6) 講義への積極的な参加を希望する。また講義テーマについての自主学習を期待する。特に復習については問題意識を持った幅広い自主学習を期待する。

### 教科書

.使用しない.

### 参考図書

.なし.

### その他

必要に応じて、プリント又は教材を配布する。加えて品質検定4級の手引き（品質管理検定センター）を配布する。

### 授業計画

第1回ものづくりと品質、パソコン操作の基本  
 予習：シラバス並びにR Y U K AポータルやキャンパスクロスにUPされた資料があれば確認する（120分）。テキストは1回目に配布する。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。そして復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。そして復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第2回品質と品質マネジメント  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第3回行程、プロセス  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第4回データ分析の実態  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第5回データの関係と相関係数  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第6回QC的考え方、分析方法（パレート図）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第7回QC的考え方、分析方法（特性要因図）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第8回QC的考え方、分析方法（ヒストグラム）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第9回QC的考え方、分析方法（正規分布）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第10回QC的考え方、分析方法（散布図）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第11回QC的考え方、分析方法（管理図とチェックシート）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第12回QC的考え方、分析方法（PARETとアローダイアグラム）  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第13回言語データの分析その1  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

第14回言語データの分析その2  
 予習：シラバス並びにテキストを確認して、講義テーマのポイントを把握する。疑問があればまとめておく（120分）。  
 復習：講義中は講義ノートを取ることで、講義ノートには講義のポイントやキーワードを記載する。復習では講義の最後に出された演習及び講義ノートを使用して、講義内容を確認する（120分）。

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経営学科共通のDPについて  
 目標(1)、(2)を達成することで共通DPである。業界動向や問題点を理解するための基礎知識を身につけ、企業マネジメントに関する問題探索、課題提案ができるようになる。品質マネジメントは企業マネジメントの基礎である。

経営特科コースについて  
 目標(1)と(2)を達成することでDP である。経営の仕組みについて考え、自ら考え、理解できるようになる。目標(3)を達成することでDP である。の現状分析を行い、具体的な改善策や解決策の提案ができるようになる。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

### 実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」  
 過去のプロジェクトマネージャとしての実務経験に基づき、製品とサービスに於ける品質と顧客の関係理解に向けたポイントを解説する。

### 備考

問題意識を持って講義に参加すること。